

## 2020年(第15回)積水ハウスマッチングプログラム 選定後講評

積水ハウスマッチングプログラムの会  
理事長 大崎 彰



「積水ハウスマッチングプログラム」は、積水ハウス株式会社及びその関係会社のCSRの一環として、グループ会社の役員及び従業員(2020年4月現在、約6200名)からの寄付金と、その同額(積水ハウス株式会社からの拠出金)を合わせたファンドを原資として、右記の3つのテーマについての活動を助成するプログラムです。

このたび、全国から127件の応募をいただき、ありがとうございました。選定委員である従業員代表の理事一同、当プログラムへの関心と期待の高さに応えるべく慎重に選考を行いました。以下、2020年(第15回)助成申請の概況、選考プロセスや選考結果を報告します。

### ■助成申請の概況

申請は、東京都が23、大阪府20、神奈川県12、京都府8、愛知県7、宮城県・兵庫県ともに6など、33都道府県より応募があり、全国からの関心の高さを伺うことができました。内訳は、こども基金77件、環境基金39件、住・コミュニティ基金は11件となっています。



積水ハウスマッチングプログラム

### ■選考プロセスと審査のポイント

一次審査は、理事長、社外アドバイザー、事務局の三者にて基礎的要件の整理作業を行い、書類審査を実施。審議の結果、53件(こども基金26件、環境基金22件、住・コミュニティ基金5件)が一次審査を通過しました。

その後、会員アンケート、団体への面談・ヒアリング等を実施し、積水ハウスマッチングプログラム理事会による最終選考(二次審査)を実施。組織の信頼性と申請プロジェクトの内容を総合的に評定し、加えて、地域バランスや新規プロジェクト、継続支援の必要性などを加味し、社外アドバイザーの情報提供を交えながら、協議を進めました。

その結果、2020年(第15回)は、長期プロジェクト助成(助成金額1年目100万円~150万円)2件(こども基金1件、環境基金1件)、単年度プロジェクト助成(助成金額30万円~200万円)35件(こども基金17件、環境基金14件、住・コミュニティ基金4件)の助成を決定いたしました。

応募件数:127件(長期・単年度あわせて)			⇒	最終結果:37件		
こども:77件	環境:39件	住コミュニティ:11件		こども:18件	環境:15件	住コミュニティ:4件

### ■全体講評

今回のこども基金・環境基金では新たに長期助成(3年)を設置し、24件の申請をいただいていることから、団体が取り組むプロジェクトには短期だけでは解決できない課題も多くあるのだということが分かりました。また応募全体の傾向は、喫緊の社会問題に対峙する団体からの申請が多く見受けられ、国内外問わず支援の届きにくい狭間の課題に対しての助成申請が集まり、海外での活動は教育や環境保全を踏まえた地域のコミュニティづくりに向けた資源の提供や環境の整備プロジェクトが多い傾向となりました。

そのような中で、今回選定されたプロジェクトは課題の解決に向けた効果的なものが多く、支援が必要なこどもたちを対象とした教育や居場所づくり・SDGsを踏まえた特定地域の環境保全・LGBT理解促進・被災地域でのコミュニティスペース運営等、国内外問わず必要性の高いプロジェクトを選定できたのではないかと考えます。

今年度に入り、世界全体で全く予想しなかった危機的状況に直面する中、「こども」「環境」「住・コミュニティ」に関する社会問題も新たな課題が生じてくる可能性があります。当プログラムを通じて、そのような社会的課題の解決、新しい価値の創造に共にチャレンジしていただきたいと思います。

引き続き、第16回・2021年度助成へも多数の応募をお待ちしております。

